

不登校の学生時代の体験に基づいた類型化

潜在クラス分析を用いて

井出草平(大阪大学非常勤講師)

本発表では、不登校を経験した者が小学校・中学校時代の体験について潜在クラス分析を行い不登校の類型の把握を試みる。また、それぞれのグループが関連をもつ変数を明らかにし、そのグループがどのような特徴を持っているかを明らかにする。不登校とは学校を病気・経済的理由以外の理由で長期欠席していることを意味する。単に学校に行っていないことを意味するため、その背景にある要因は一様ではない。

本発表で使用するのは、2010年に内閣府によって実施された「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」である。有効回答数の3287のうち小中学校の時に不登校を経験した者は295であり、本発表はこの295名の分析結果である。潜在クラス分析に使用する項目は小中学校時代の体験である。分析に使用するのは質問項目うち不登校とクロス集計を行いカイ二乗検定で関連が認められた項目である。BIC及びBLRT(Bootstrap Likelihood Ratio Test)によって4クラスが支持された。応答確率を表1に示す。

表1 不登校の潜在クラス分析ークラス構成割合と条件付き応答確率

	1クラス	2クラス	3クラス	4クラス
クラス構成割合	0.173	0.521	0.157	0.150
クラス名	家庭問題型	非特異型	非社交型	学校不適応型
条件付き応答確率				
友達とよく話した	0.866	0.847	0	1
親友がいた	0.735	0.688	0	0.864
友達をいじめた	0.391	0	0.074	1
友達にいじめられた	0.603	0.328	0.478	0.785
学校の勉強についていけなかった	0.274	0.297	0.351	0.564
両親の関係がよくなかった	0.808	0.091	0.093	0
両親が離婚した	0.731	0.068	0.174	0.038
経済的に苦しい生活を送った	0.538	0.073	0.151	0.084

クラス1はいじめ加害・被害と家庭に問題を持ったクラスである。クラス2には際立った問題がみられない。不登校の52%がこのクラスに属する。クラス3は非社交性に特徴がある。クラス4は家庭の問題は少なく、いじめや成績不振など学校の問題に特徴がある。また、他の指標との関連をみると、クラス3のみひきこもりとの関連が認められた。

今回の分析では不登校は4つのクラスに分類された。不登校は2000年代にはひきこもりとの関連が、近年はいじめや貧困との関連が指摘されることがあるが、それらの現象との関連は不登校全体にあるわけではない。不登校の研究や支援では、言説の潮流に惑わされることなく、実態を踏まえた議論が必要とされる。